

【千里 LF のめざすところ】 ライフサイエンスの「知の交流拠点」としての役割を果たす

【現状と課題】

- これまでの取組みで、継続的に研究交流・人材育成事業等を実施し、常に全国から大学・研究者・企業等の参加を得られるようになり、交流規模の拡大・充実につながった。
- セミナー、フォーラムなど人材育成事業や普及啓発事業について、コロナ前はほぼ目標としていた参加者数を達成。
- コロナ以降は Web による開催によって参加しやすさ（地理的、時間的、経済的など）が大きく向上し参加者数全体及び広域からの参加者が増加、数的拡大や全国的な広がりを生むことができた。内容の充実に合わせて講師や参加者、研究者から高い満足度を得た。
- 研究助成事業や実用化支援事業においても新システム導入や Web を活用して事業実施し成果を上げてきた。
- 一方、長引く低金利という厳しい運用環境の変化に耐えられる永続的な事業運営が必要である。
- 産学官のプレイヤーが実際に千里の地に集まる従来の交流拠点に加えて、今後はリアルと Web の双方のメリットを活かしたハイブリッドの事業展開によって、より多く、より遠方の人々（全国・海外）が集う「知の交流拠点」としての役割を一層果たしていくことが求められている。

【中期5か年計画のめざす姿】

ライフサイエンス分野における大阪の優れた特性をさらに伸ばし、研究・開発と産業の活性化を通じて社会に貢献していくため、

- (1) Web を活用しながら事業を全国展開し、財団認知度および財団が築き上げてきたユニークな価値の最大化
- (2) デジタル化、業務や事業のスクラップ&ビルドを通して効率化を推進し、少数精鋭による事業展開と顧客満足度UPをめざす

「知の交流拠点」としての役割を果たしていくための4つの事業を展開（4本柱）

I. 研究交流・人材育成事業

1. 千里ライフサイエンスセミナー

- (1) 概要
- ・我が国を代表する第一線の研究者による先端的研究の成果・動向等の発表・紹介を通じ、研究交流と人材育成を図ることを目的に「千里ライフサイエンスセミナー」を開催する。テーマは毎年、外部委員からなる企画委員会で議論・決定している。
 - ・また、セミナーの一環として、2年毎に1回、海外から著名な研究者に集まっていただき、世界最先端の研究内容の講演いただく「国際シンポジウム」を開催（英語開催）する。
- (2) めざすところ
- ・クオリティの高いセミナーを開催し、知の交流拠点としての役割を果たしていく

- (3) 成果目標
- ①参加者数：各回平均300名以上（年5回開催予定）（Webの場合は延アクセス数）
 - ②広域（京阪神以遠）からの参加者：各回平均90名以上
 - ③参加者満足度：各回平均80%以上
 - ④知の交流機能（双方向性）を高める工夫の実施（質疑応答の時間増など）
 - ⑤国際シンポジウムの隔年開催

2. 新適塾

- (1) 概要
- ・ライフサイエンス分野の先端的なテーマについて、第一線の研究者と若手研究者が自由闊達に議論できる場として、講演会・懇談会を実施する。緒方洪庵の「適塾」の向上心・闊達性の再現を目指したネーミング。
 - ・テーマは毎年、外部委員からなる企画委員会で議論・決定している。現在は「未来創薬への誘い」「脳はおもしろい」「難病への挑戦」の3つのテーマで、毎月いずれかのテーマで新適塾を実施している。
- (2) めざすところ
- ・「何でも聞けて本音で話す」「何を尋ねても恥ずかしくない」気軽な雰囲気第一線の研究者と若手研究者または若手研究者同士が自由闊達に議論できる場を創る。

- (3) 成果目標
- ①参加者数：各回平均180名以上（年12回開催予定）（Webの場合は延アクセス数）
 - ②参加者満足度：各回平均80%以上
 - ③広域（京阪神以遠）からの参加：概ね20%
 - ④知の交流機能を高める工夫の実施（質疑応答の時間増、懇談会の再開など）

II. 研究助成事業

岸本基金研究助成事業

- (1) 概要
- ・岸本基金研究助成は、岸本基金からの寄付金を事業財源とし平成22年度から事業を開始。独創性、先行性があり、ライフサイエンスの振興に寄与することが期待できる若手研究者（40歳以下）の研究テーマに対し助成している。
 - ・岸本基金研究助成の採択にあたっては、外部委員15名からなる「研究助成選考委員会」において、応募のあった研究内容を厳正・公平に審議し、採択を行っている。
- (2) めざすところ
- ・寄付金を活用し、若手研究者の質の高い研究に対して助成・支援を行う。京阪神のみならず全国からのチャレンジ（応募）を増やす。

- (3) 成果目標
- ①財源確保額：3,000万円/年（助成@200万円*15件）
 - ②応募件数：200件/年以上
 - ③広域（近畿圏以外）からの応募：60%以上

III. 普及啓発事業

1. 千里ライフサイエンスフォーラム

- (1) 概要
- ・幅広く「教養の向上」と「交流」を図ることを目的に、ライフサイエンスのみならず様々な分野の第一線で活躍する研究者を講師として、一般市民を対象に開催するフォーラム（講話）。猛暑の8月を除き毎月実施している（年11回）。「千里ライフサイエンスクラブ」会員は無料で、非会員は有料で参加が可能。現在はコロナの影響により録画配信としている。コロナ以前は講話の後に交流会を開催していた。
- (2) めざすところ
- ・超高齢社会にあつて、教養の向上・生涯学習の場とともに、生きがいと仲間づくり・世代を超えた交流の場を創ることをめざす。Webを活用し全国展開を図る。

- (3) 成果目標
- ①フォーラム参加者数：クラブ会員総数の平均2/3以上の参加
 - ②フォーラム参加者満足度：各回平均80%以上
 - ③クラブ会員数：計画期間内で150名到達
 - ④クラブ会員満足度：毎年80%以上

2. 市民公開講座

- (1) 概要
- ・ライフサイエンスに関する身近なテーマ等について、一般市民を対象に公開講座（無料）を開催し、市民の方々が必要としている正しい知識をわかりやすく普及している。産経新聞社の協力を得て実施している。現在はコロナの影響によりWebでの開催としている。
- (2) めざすところ
- ・少子高齢社会、新型コロナウイルス感染の世界的流行、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される2025年大阪・関西万博など、いのちや健康への関心が高まる昨今、ライフサイエンスに関し、わかりやすく正しい知識をより多くの一般市民に啓発普及する。Webを活用し全国展開を図る。

- (3) 成果目標
- ①参加者数：計画期間内に200名/回達成（Web・録画配信アクセス数を含む）
 - ②広域（京阪神以遠）からの参加：概ね20%
 - ③参加者満足度：各回平均80%以上

3. 小学生・高校生事業

- (1) 概要
- ・小学生や高校生に向けて、生命・自然科学に対する知的好奇心や向上心等を醸成することを目的に取り組んでいる。未来のライフサイエンスの発展を担う次世代の人材育成を目指している。
- (2) めざすところ
- ・小学生に、実物に触れたり自ら科学実験を行うなどの実体験を通じて、生命や自然科学に対する知的好奇心・向上心を醸成し、未来の科学技術の発展を担う人材育成につなげる。（いわゆる「博士ちゃん」育成）。事業効果の一層の向上を図るため併せてWeb開催を検討する。
 - ・高校生を対象にライフサイエンスの研究者と自由闊達に質疑応答することを通じて知的好奇心・向上心の醸成とともに科学的な着眼・着想力や探究心を刺激し、次世代の人材育成をめざす。セミナーについては参加募集は全国の高校を対象とする（Webの部）。

- (3) 成果目標
- | | |
|------------|--|
| ①小学生Sスクール | 参加者満足度：80%以上 |
| ②高校生LSセミナー | リアル参加者数：100名以上
広域（京阪神以遠）からのWeb参加者：概ね20%
参加者満足度：80%以上 |
| ③高校生出前授業 | 参加者満足度：80%以上
学校からの満足度：80%以上
実施校数：3校/年 |

4. 広報

- ①広報誌「LFニュース」発行目標：3回/年
- ②ホームページの充実 月当たりアクセス件数目標：13,000件
- ③財団紹介冊子の作製、叢書・報告書等の発刊

IV. 実用化支援事業

1. 技術講習会

- (1) 概要
- ・ライフサイエンス分野の先端的研究技術（実験技術、機械・装置活用）について、熟練技術者による技術解説・実習を通じて、若手研究者に先端技術習得の機会を提供する。技術講習会のテーマは毎年の企画委員会において協議・決定している。
- (2) めざすところ
- ・大学・企業等の若手研究者等に新しい技術習得の機会を提供する本事業は、人材育成、実用化支援の両面において意義深く、事業継続する。
 - ・リアル開催及びWeb開催を使い分け、実効性と参加しやすさを両立して参加者数の増を図る。

- (3) 成果目標
- | | |
|-----------------------|---------------|
| 「技術解説」 | 「技術実習」 |
| ①Web参加者数：概ね50名 | ①参加者数：概ね10名 |
| ②広域（京阪神以遠）からの参加：概ね50% | ②参加者満足度：80%以上 |
| ③参加者満足度：80%以上 | |

2. 産学官連携事業

- (1) 概要
- ・大阪大学との連携ではAMED日本医療研究開発機構の橋渡し研究戦略的推進プログラムの中で、特許出願を目指すシーズA及び異分野融合型研究シーズHのうち、大阪大学以外（拠点外）のシーズに対する育成強化について、大阪大学から業務受託している。財団の有する知識・経験等の蓄積を活かし、Webを活用して、助言・フォローアップ、企業へのつなぎ、阪大との協議等を行っている。
 - ・大阪府等との連携ではアカデミア研究者とベンチャーキャピタル（VC）・製薬企業等との交流による事業化の促進や中小・ベンチャー企業とVC・ライフサイエンス関連企業とのビジネスピッチや交流によるマッチング
- (2) めざすところ
- ・大阪大学や府と連携しながら、「アカデミア研究者・大企業/VC・中小企業/ベンチャー企業」の交流や連携を支援。

- (3) 成果目標
- ・2021年度で終了するAMED日本医療研究開発機構の「橋渡し研究戦略的推進プログラム」・「異分野融合型研究開発推進事業」の後継プログラムについて引き続き大阪大学から業務受託を獲得する。
 - ・アカデミアと中小・ベンチャー企業等との意見交換会への参画（2021年度から先行して取組済み）
 - ・関西のグローバルバイオコミュニティであるBioockとの連携促進（連携機関として）

運営体制・経営基盤

- (1) 概要
- ・事務局は効率的な業務執行体制づくりに努め、理事会・評議員会・委員会は外部からの参画を仰ぎ公正な運営に努める。
 - ・長引く低金利、新型コロナによる経済社会活動の先行き不透明感、不安定な国際情勢など厳しい運用環境の中ではあるが、安全性に立脚しつつ最大限のパフォーマンスを目指した資産運用と事業運営に必要な外部資金の獲得に努める。
- (2) 目標
- ①公正かつ機動的な運営体制づくり
 - ②安定した経営基盤づくり
 - ③不断の業務改革
- (3) 成果目標
- ①グループ統合及び人員・ポスト削減
 - ②資産運用益の獲得：9,000万円/年
 - ③研究助成寄付金の獲得：3,000万円/年（再掲）